参考１

道路利用者のニーズにより的確に応えるため、道路の機能の特化とそれにあわせた整備・管理を行うための実験例

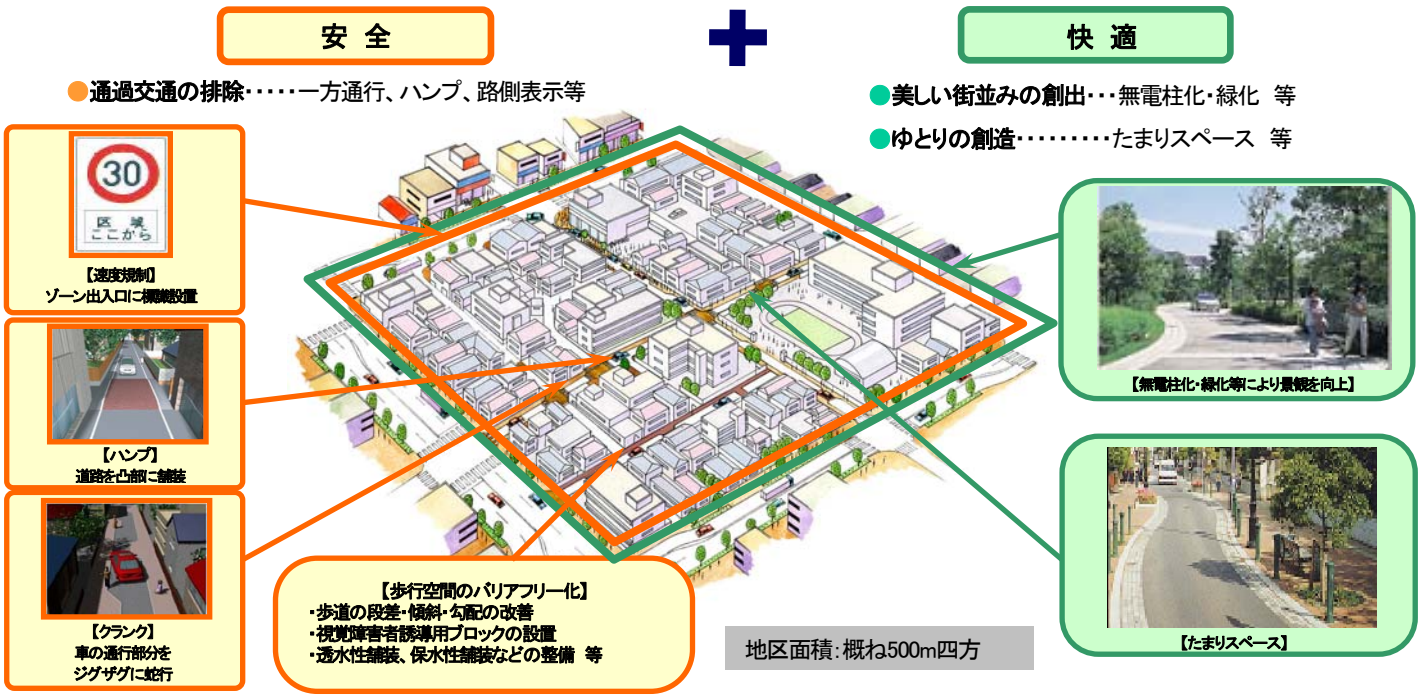
くらしのみちゾーン・トランジットモール

【施策の概要】

「くらしのみちゾーン」は、外周を幹線道路に囲まれている等のまとまりのある住区や中心市街地の街区などにおいて、警察と連携して一般車両の地区内への流入を制限して身近な道路を歩行者・自転車優先とし、併せて無電柱化や緑化等の環境整備を行って、交通安全の確保と生活環境の質の向上を図ろうとする取組みです。

「トランジットモール」は、中心市街地のメインストリート等で警察と連携して一般車両の利用を制限して、歩行者・自転車とバスや路面電車などの公共交通機関の利便性を高め、街の賑わいを創出しようとする取組みです。

「くらしのみちゾーン」：施策イメージ図





「くらしのみちゾーン」社会実験
（千葉県鎌ヶ谷市）



「トランジットモール」社会実験
（青森県八戸市）

地域における様々な課題を解決するため、道路として積極的に貢献していくための実験例

通りの名前を利用した道案内（通り名・位置番号方式）

【施策の概要】

日本の住所表示は「街区方式」であるため、欧米の「道路方式」と比較して、観光客や外国人など地域に不慣れな人にわかりやすく案内をすることが難しい状況であるため、通り名と位置番号を組み合わせた「通り名・位置番号方式」を試験的に実施することにより、その実施効果・合意形成・効率的な案内方法などの課題を検証します。

【ねらい】

通り名と位置番号を使って、案内したい場所をうまく特定できるルールを作り、地域に不慣れな人に対して分かりやすく道案内ができるようにすること。

○　場所を特定するルール（通り名・位置番号方式）

- 通りに名称を付ける。
- 通りの起点から10m単位の概ねの距離を位置番号とし、起点を背に右側に奇数番号、左側に偶数番号を表示する。

【取組みイメージ】

通り名マップ、通り名で道案内、現地標示　の３点セットで分かりやすく道案内

